

神のます宮古の北の野の近し

いつとりもかく代こそおさまれ

左兵衛督直義家連歌よ、

賢は友をゑらふり習なる

前大納言尊氏

〔菟玖波集〕

十九
雜跡連歌

舟をさゝく奥陸しらあそ

夜にあればとまやの窓をふてより

前大納言尊氏

數七つある神の御やしる

上をくその名の文字は十あるよ

前大納言尊氏

いろやの庭はくれゑ成ぬる

浦よ又ほすたきゝをもとり入て

前大納言尊氏

とまるへき里のさすうゑゑられり

衣のこゑする道のするゑあ

前大納言尊氏

〔菟玖波集〕

十九
聯句連歌

竹戸風開閑

南朝正平十三年 北朝延文三年四月三十日